

平成30年度の管理運営状況（駒沢オリンピック公園総合運動場）

指定管理者：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等																																										
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の安全安心・快適性を確保するため、施設・設備について、老朽化の状況等を踏まえ、都との緊密な連携により補修・修繕を実施 (第二球技場及び補助競技場の人工芝修繕、トレーニングルーム更衣室の修繕及び環境改善、軟式野球場防球ネットの設置工事、陸上競技場会議室カーペット更新、体育館仮設席の修繕等) 																																										
		施設の提供について	<ul style="list-style-type: none"> ●優先受付やスポーツ団体への動き掛け等により、多様な大規模大会を開催 日本グランプリTOKYO2018、内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯争奪平成30年度第72回全日本総合バドミントン選手権大会、天皇杯平成30年度全日本レスリング選手権大会、第38回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権、スポーツライミング第14回ボルダリングジャパンカップ、高円宮杯ホッケー日本リーグ、第97回全国高等学校サッカー選手権大会(開会式・開幕戦)、JFA第24回全日本フットサル選手権大会、ANA CUP第43回日本ハンドボールリーグプレーオフ 																																										
	安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●安全点検パトロールを定期的(月1回)に実施し、施設・設備の危険箇所の発見と対応 ●関係団体実務代表者による「連絡調整会議」を月1回実施し、一体的運営を確保 ●アリーナ床の「ささくれ」による事故の防止に向けて、日々の床チェック並びに専門業者による床面状況の状況確認を実施した。 ●安全な施設提供を行うために、用具の保全や運用方法について内部研修を実施した。 ●豪雨時の水害対策として、対応マニュアルを整備し、対応方法の検証や対応研修を実施した。また、大雨が予想される際には、浸水が予測される施設に止水板を設置した。また、排水能力向上のため、排水管の検査や、排水枳の蓋をグレーチングに更新した。 ●積雪による利用者の安全確保と施設提供の停止期間を短くするため、除雪機を配備しこれに備えた。 																																											
事業効果	事業の取組み	防災への配慮・緊急時対策	<ul style="list-style-type: none"> ●公園管理者と合同で防災訓練の実施 ●AEDを全施設に配備、全職員が「普通救急救命講習」受講 ●飲料自動販売機の災害時における無料提供(34基)の確保 ●都から支給の帰宅困難者用備蓄品の保管・管理に加え、所独自に食料・飲料水・救急セット等備蓄品の確保 ●地元警察署、消防署、自衛隊、区役所の協力や地域住民参加による防災フェスタin駒沢を実施(公園管理者と連携) 																																										
		利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> ●トレーニングルーム個人利用実績 222,701人(うち無料利用者8,199人) ※毎年度、過去最高の利用者数を更新中 ●施設稼働率(体育館、第二、補助) 平均稼働率実績 97.0% ※高い稼働率を継続 ●陸上競技場では団体利用が無い日に個人利用者にトラックの開放を行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5"><トレーニングルーム利用者数></th> <th>(人)</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>191,293</td> <td>197,617</td> <td>217,972</td> <td>222,701</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5"><稼働率></th> <th>(%)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>体育館</th> <th>第二球技場</th> <th>補助球技場</th> <th>平均</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>96.2</td> <td>97.8</td> <td>99.2</td> <td>97.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>95.5</td> <td>97.3</td> <td>98.3</td> <td>97.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	<トレーニングルーム利用者数>					(人)	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		利用者数	191,293	197,617	217,972	222,701		<稼働率>					(%)		体育館	第二球技場	補助球技場	平均		H29年度	96.2	97.8	99.2	97.7		H30年度	95.5	97.3	98.3	97.0	
		<トレーニングルーム利用者数>					(人)																																						
		年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度																																							
利用者数	191,293	197,617	217,972	222,701																																									
<稼働率>					(%)																																								
	体育館	第二球技場	補助球技場	平均																																									
H29年度	96.2	97.8	99.2	97.7																																									
H30年度	95.5	97.3	98.3	97.0																																									
スポーツ振興事業及び自主事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●駒沢ジュニアサッカースクールなどスポーツ振興事業16事業、ジュニアベースボール大会など自主事業18事業、計34事業を計画どおり実施 ●体育の日記念行事では、バスケットボール3×3、車いすバスケ、ラグビーの体験等を通じて、東京2020大会・ラグビーワールドカップ2019の気運を醸成 																																												
サービス向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ●年末年始休館時(12/28~1/3)も、大会主催者の要望を踏まえて貸出し、全国高等学校サッカー選手権大会等を実施 ●オリンピック記念塔ライトアップを行い、東京2020大会の気運を醸成 																																												
利用者ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ●利用満足度調査、利用者懇談会を実施し要望等を把握するほか、事業毎のアンケートや各施設に設置したご意見箱により利用者の声を収集 ●利用者の要望に応じ弓道場の防矢ネットの高さ調整やトレーニングルームの冷水器を設置・更新を行った。また、利用団体の要望に応じスタート発信装置など競技備品の更新を行った。 																																												
その他公園との連携協力、大規模工事への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ博覧会、6時間耐久レースやクリスマスイルミネーションなど、中央広場等の公園施設を活用した一体イベントの実施 ●「公園連絡調整」の担当を設置し、毎朝の打ち合わせを行い、情報の共有を徹底 ●警備業務では、施設毎に個別で警備を行うのではなく公園全体を一体として警備することで、園内全体の治安維持による事件・事故を未然に防止し、業務の効率化と費用削減を図りました。 ●廃棄物の処理においても公園と一体として取り扱うことにより費用削減をおこないました。 ●硬式野球場の増築・改修工事について、東京都や施工業者、公園管理者、競技団体等と密接に連携しながら工事や再開に向けた調整を行った。これらに加え体育館の大規模改修に向けた準備調整や管制塔受水槽更新、弓道場外周塀改修などについても全面的に協力した。 ●改築したばかりの屋内球技場や第一球技場については、安定稼働の途上にあるため、東京都や施工業者と調整を行いながらきめ細やかな配慮し運用に努めている。 																																												